



平成22年2月10日

各 位

会社名 前田建設工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 小原 好一
(コード番号1824 東証第一部)
問合せ先 経営管理本部財務部長 佐藤 寿郎
(TEL 03-5276-5114)

子会社の業績予想の修正に関するお知らせ

当社子会社である株式会社前田製作所（ジャスダック上場）が、本日、平成22年3月期の通期連結業績予想の修正を行いましたので、お知らせいたします。

なお、本件による当社の連結業績予想の変更はございません。

添付資料 株式会社前田製作所開示資料
「平成22年3月期 業績予想の修正に関するお知らせ」

以 上

各 位

会社名 株式会社前田製作所
 代表者名 代表取締役社長 土屋 俊一
 (JASDAQ・コード 6281)
 問合せ先 財務部長 高木 文雄
 電話番号 026-292-2225

平成 22 年 3 月期 業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、平成 21 年 11 月 12 日付け「平成 22 年 3 月期 第 2 四半期決算短信」にて公表いたしました平成 22 年 3 月期の連結業績予想を下記のとおり修正することを決議いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

1. 平成 22 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	25,000	△220	△260	△600	△37.34
今回修正予想 (B)	22,000	△1,000	△1,000	△1,300	△80.91
増減額 (B-A)	△3,000	△780	△740	△700	—
増減率 (%)	△12.0	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 3 月期)	30,905	94	68	66	4.16

2. 修正の理由

平成 20 年秋の金融危機後の世界同時不況に伴う景気悪化は、アジアを中心とした海外経済の回復と国内政策効果により、一部の業界には景気の底打ち感はあるものの、当社グループが関係する建設業界は民間設備投資、民間住宅投資の減少から、依然として回復には至っていない状況で推移しております。

このような環境下において、当社グループは、本年度を最終年度とする中期経営計画「Maeda New Stage Plan」に基づき民間需要関連商品及び自社商品の販売並びに IT 分野の受注に取り組んでおります。

建設機械販売・サービス事業は、例年、第 3 四半期以降は公共工事がピークを迎えることもあり、新車販売及びレンタル機の稼働が高まる傾向にありますが、当第 3 四半期においても先行きの不透明感から市場マインドが冷え込んだままであり、通期新車販売が計画を下回る見通しであり、さらに、前年、中止・先送りになった民間設備工事が再開に至っておらず、レンタル機の稼働が例年通り上がる見通しが立たない状況であります。

産業・鉄構機械等製造事業は、国内においては、レンタル業界の投資抑制の影響から「高所作業車」が、また、海外においては、ユーロ圏の景気は持ち直しつつあるものの、一部の国における住宅・不動産バブルの後遺症は根深く、急速な回復には至らない状況にあり「かにクレーン」の販売が伸び悩んでおります。IT 業界においては、生産の回復は見られるものの設備増強までには至っていないことから、IT 関連製造装置の新規受注が見込めない状況であります。

以上のことから、売上高は 22,000 百万円(前回予想比 3,000 百万円減少)となる見込みであります。

利益面については、経費の削減に努めましたが売上高減少を吸収するには至らず、営業利益△1,000 百万円(前回予想比 780 百万円減少)、経常利益△1,000 百万円(前回予想比 740 百万円減少)、当期純利益△1,300 百万円(前回予想比 700 百万円減少)となる見込みとなりましたので、平成 21 年 11 月 12 日に公表いたしました通期連結業績予想を修正させていただきます。

個別業績予想数値は、個別情報の重要性を踏まえ、投資情報としての重要性が大きくないと判断しているため、公表を行っておりません。

(注) 上記の業績予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

なお、平成 22 年 3 月期の連結業績予想につきましては、本日付け「平成 22 年 3 月期 第 3 四半期決算短信」にて開示しております。

以 上